

視聴覚教育

NO. 391

発行日

25. 3. 22

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

視聴覚用語

『SSD (Solid State Drive)』

記憶媒体としてフラッシュメモリを用いるドライブ装置。

ハードディスクドライブに比べて読み書きが高速で、機械的に駆動する部品がないため衝撃にも強いという利点がある。最近ではハードディスクの代替として利用が進んでいる。

この一年の歩み

学習情報指導員

佐渡 英彰

先日、東京で行われた一般財団法人コンピュータ教育推進センター主催の『教育の情報化』推進フォーラムに参加した。その時実践発表された授業が素晴らしかったので紹介したい。

中学一年理科の地層の学習。各グループには寒天を利用した地層のモデルとストロー、そしてタブレットPCが配付されている。子供たちは寒天の地層モデルの見えない部分がどうなっているか、ストローを寒天に刺す疑似ボーリング調査を行い明らかにしていく。そして、説明に必要な画像をタブレットPCに取り込み、グループで結論付け、教室前面にある大型電子情報ボードに転送をする。画面をなぞり、色で囲ったり矢印をつけたりしながら、結論の根拠を発表していく。そこには、21世紀型モデルと言われるICTを活用した協働学習の姿があった。文科省の「学びのイノベーション事業」を始め、県内市内でもタブレットPCを利用した授業が盛んに実践されている。そういう中、子供のICT活用能力と共に、教師のICT指導力が重要なもの言うまでもない。

本年度岡崎市では、すべての学校に校内LANが導入され、ますます多くの教科領域の授業

で、50インチデジタルテレビなどのICTを活用した授業が進められた。また、情報モラル育成の授業は、子供を取り巻くネット環境の変化、小型携帯情報端末の爆発的な普及など、現実的な課題として多くの学校で取り組まれており、今後ぜひ継続していただきたい。

コンテンツの制作という点では、本年度も大きな成果を得ることができた。全国自作視聴覚教材コンクールでは、優秀賞二作品、入選一作品という成果を挙げた。また、「おかざき映像教材研究会」として、六つの自作視聴覚教材制作し、それらは、愛知県自作視聴覚教材コンクールにおいて、最優秀賞(県教育長賞)を始め、すべての作品が入賞した。一方、子供たちの映像制作も各学校において活発に行われ、各コンテスト等の輝かしい成果が報告されている。

第10回を迎えた「ふるさと岡崎メディアコンクール」では、過去最高の二二三作品の応募があった。実際、教室の大型ディスプレイで、自作教材を活用した授業場面も多く見られた。今年度も様々な活動により多くの成果を上げることができ、岡崎の視聴覚教育、情報教育の水準の高さを示すことができた。来年度も、より学習の広がりや深まりを目指して、教師子供共にICTを有効活用することを願っている。

●平成24年度 愛知県自作視聴覚教材コンクール

○生涯学習部門

佳作『大提灯まつり』 鈴木 功

○学校教育部門 (1)ビデオ教材

最優秀賞(県教育長賞)

『地域の農業を守る―新しい農業のかたちをめざして―』

尾山 和昭(矢南小) 村田 貴志(六北中)

名倉 嘉章(羽根小) 水野 利明(六名小)

後藤 真司(甲山中) 森 綾子(下山小)

神野 裕美(六西小) 岩瀬 富雄(矢東小)

優秀賞『魚にこめられた思い ―岡崎魚市場の役割―』

峯澤 泰季(南 中) 近藤 雄一(東海中)

岡本 昌也(矢北中) 赤堀 大知(矢南小)

寄田 彩日(広幡小) 尾崎 秀彰(矢北中)

井上 義丸(六中小) 石川 伸一(矢東小)

優秀賞『エンジンからモーターへ ―そして未来へ―』

服部 将也(葵 中) 吉原 昌利(東海中)

徳 尚和(竜南中) 杉浦 修(常磐中)

山口 秀樹(根石小) 鈴木 里子(竜海中)

佳作『生平で受け継がれる祭りと地づき唄』

生平小学校 現職教育部 代表 河合美智代

佳作『家康ゆかりの地 岡崎 ―ビスタラインにこめられた思い―』

笠間 大樹(根石小) 内田 裕斗(梅園小)

本間 茂夫(根石小) 榊原由里香(常磐小)

河口 加奈(常磐小) 川本 祐二(大樹寺小)

鈴木 一史(大樹寺小) 長谷川威全(本宿小)

○学校教育部門 (2)コンピュータソフトウェア教材

優良賞『岡崎の偉人たち』

鈴木 広樹(六中小) 三輪 恭之(六美中)

成瀬 正和(羽根小) 高瀬 玲子(愛宕小)

佐渡 英彰(矢南小) 井上 清美(夏山小)

優良賞『水質 ―環境の証人―』

長谷川誉幸(美川中) 内田 雅之(井田小)

伊藤 研治(南 中) 杉山 康子(生平小)

鈴木 絢也(城北中) 岩野 慎也(井田小)

岡 秀之(羽根小)

実践報告Ⅱ

子供の事態に合わせた自作教材

福岡小学校 院南孝幸

昨年度から特別支援学級を担任している。特別支援学級の子供には、具体的に分かりやすい教材が必要である。しかし、市販のものは子供の実態に合わないこともあったため、教材を自作することにした。

生活単元の授業で、刈谷市の子供遊園に行き、乗り物に乗る学習を行うことになった。その際、学校から岡崎駅まではバスを利用する。社会体験として、自分で運賃を払えるようにしたいと考え、パワーポイントで教材を作成し事前学習を行った。

教材の内容は、教師がバスに乗るという設定で、バス停で運賃を確かめるところから始めた。実際に乗るバス停で写真を撮り、車内の表示なども入れた。バスに乗り目的地で降りることができるように、乗る時の手順、お金の払い方など、ポイントとなるところで説明を加えた。パワーポイントで手順を確認した後には、シミュレーションとして動作化し、理解できたかどうか確かめた。また、間違いが多かったところについては、もう一度見せて確認した。社会見学当日、子供は疑似体験したことを生かし、自信をもってバスに乗ることができた。



Ⅱレッツ・トライⅡ

デジカメのGPS機能を使う

本校ではパソコン教室の更新に伴いデジカメもGPS機能の付いた機種(CASIO EXILIM EX-H200)が導入された。写真を撮った時の位置情報を記録できる他、移動履歴保存(ログ)機能もついている。移動した軌跡を記録できるため、修学旅行や学区探検等で利用できそうである。

●修学旅行等観光地での利用

デジカメには観光地の詳細な地図が内蔵されている。地図モードにすれば、どこで写真を撮ったか、どう移動したかデジカメで表示することができる。

●学区探検での利用

市内では、詳細な地図がデジカメに内蔵されていない。しかし、パソコンを使えば、移動した軌跡を表示させることができる。カメラ内部に保存された測位ログデータをメモリーカードに一括保存し、それをGoogle Earthのインストールされたパソコン(教室のノートパソコン等)で開くだけである。多少の誤差はあるが、よい記録になるので、まとめに活用していきたいと考えている。



(小豆坂小学校 学習情報主任 高橋啓二)

ライターフリーだよ

●2012年度KWN日本コンテスト

キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)は、パナソニック財団が主催する教育支援プログラムです。子供たちが自由な発想で映像制作に取り組むことを通じて、創造性やコミュニケーション能力を高め、チームワークを養うことを目的としています。

国際交流賞

『だから、私たちは、創る。』

『We can change the world!』

井田小学校

共感賞

『今が大切』

『楽しまなくっちゃもったいない!』

葵中学校

●第15回キューブ活用コンテスト

本コンテストは、スズキ教育ソフトが、キューブシリーズのソフトを利用して制作した。パンフレットやスライド作品を対象に行っているコンテストです。

活用賞

『うちゅうかばちやができた』

生平小学校 2年生

【編集後記】

今年度も実践事例や各種情報をお寄せくださり、有難うございました。中でも情報モラルについての実践や報告が多くありました。各校で情報モラル教育を推進していることが反映されていると思います。来年度も月報「視聴覚教育」の一層の充実を図っていきます。

